

夏の学校 宴会用 狂言

「実験室に現れた女神」 ver.2.2

登場人物 シテ、アド(女神)

場面 1

人物	セリフ	演技
シテ	このあたりの者でござる。本日は、X線のエネルギーCTの測定に参った。実験室に着いた。 これがX線管、これが検出器。その中間にファントムを置くのでござる。 ファントムは、つー、つー、と動き、端まで来れば、始めに戻り、10度回転して、またつー、つー、と動くのでござる。	舞台中央で
シテ	X線のエネルギー情報を利用して、ビームハードニングフリーのCT画像を撮るのみならず、(小さい声で、***)を使って、被曝量を低減するのぢや。これで、次の応物論文賞は、みどもの物ぢや。あーはっは、あーはっは。	***の所は、いかにも企業秘密。大げさに笑う。
女神	(シテ1が笑っているときに、しずしずと)	右手まで
シテ	やや、なんとしたこと。	驚く
女神	わらわは、女神である。その方は、勤勉者ぢやによって、願いを聞いて使わす。何なりと申すがよい。	
シテ	(ガラスバッジを付けているかどうか、女神をつらつらと観察する)	
女神	わらわに見とれているのか？何なりと申すがよい。	ちょっと恥ずかしげ。
シテ	恐れながら、女神殿。このあたりは管理区域によって、千代田テクノルが作り申したこのガラスバッジ線量計を着用頂きたく、お願い申し上げます。	手渡す。
女神	・・・線量計を付けたぞ。願いはかなえた。 それでは、参る。(斜め左奥へ、しずしずと移動)	線量計を付けて
シテ	(女神が移動し始めてから) や、これはしくじった。新しいX線管をこれから願うところを。ついつい、RI主任を長く務めておるものじゃから。これ、女神、やるまいぞ、やるまいぞ。	両手を前に出して、追いかける。

場面 2

シテ	このあたりの者でござる。本日は、みどもが作り申した InSb 検出器を使って、ガンマ線の測定に参った。 実験室に着いた。	
シテ	さてさて、液体ヘリウムをクライオスタットに入れるのぢゃ。 さあ、さあ。	
シテ	ガードリングを付けた InSb 検出器で、ガンマ線の光電ピークを測定すれば、次の原子力学会論文賞は、みどもの物ぢゃ。 あーはっは。あーはっは。 そうぢゃ、クライオスタットが冷えるまでに半時かかるによつて、この間にゾーンメルトで育成している InSb 結晶の様子を見てくるとしよう。	
女神	(シテが笑っているときに、しずしずと)	右手まで
シテ	やや、なんとしたこと。	驚く
女神	(独り言)先ほどは、なんとも、良いことを行つたような気がしない。・・・さよう、尋ね方を変えれば良いのぢゃ。 これ、そなたは何をしているのぢゃ。	納得の様子
シテ	・・・結晶を育成しております。	
女神	その結晶は、金の結晶か、銀の結晶か、それとも銅の結晶か？	
シテ	さにはあらず、これは InSb の結晶でございます。InSb は、原子番号が 49, 51 と大きく、密度も高いので、光電効果が・・・ (延々と説明を続ける勢い)	
女神	(理解不能になり、耳を覆う)もう良い、分かり申した。	
シテ	・・・女神、文系の方か？	
女神	(質問には答えず)そなたは、正直者ぢゃ。よつて、結晶を金にしてつかわす。それでは、これで参らん。	左後方へしずしずと
シテ	(女神を目で追い、はっと気づいて結晶を見やる) やや、これは何としたこと。最前まで銀色をしていた InSb が金色に輝いておる。・・・(少しの間、喜ぶが、はっと気づく) いやいや、これでは秋の学会で発表がままならぬ。 やい、女神、やるまいぞ、女神、やるまいぞ。	手を振り上げて、追いかける。